

2. 観光資源調査/資源の観光対象化

(1) 笛吹市内観光資源

I-3-(1)に示したように、笛吹市は豊かな観光資源に恵まれ、その内容は、温泉はいうに及ばず、祭り、歴史、自然（果樹や花）など、多岐の分野にわたっており、また笛吹市を構成する旧6町村は、果実郷といった共通の性格を持ち合わせながらも、それぞれに古い歴史に彩られている。

旧6町村域別に観光資源の特徴等を示す。

1) 石和町域

石和町は立地上は県都甲府市の衛星都市的存在ではあるが、交通や産業基盤の上からは盆地東部の要衝に位置している。かつては、産業の中心は農業で占められていたが、町内市部地区を中心とした旧国道20号線沿道地域は、古くからの宿場町として栄え、また近隣町村を商圈とした商店街が発達した。

しかし昭和36年2月の突然の温泉湧出によって田園のまっただ中に温泉旅館などが出現するようになり、付近の観光地と結びついて観光都市の様相を色濃くしている。

石和温泉郷は山梨県の観光における一大拠点であり、将来的にも、その位置づけが大きく変わることはないものと見る事ができるであろう。

昭和36年の突然の湧出を契機として脚光を浴びるようになったといういきさつから、とにかく温泉の資源性だけに目を奪われがちであるが、もともとは甲州街道の宿場町として栄えた町であるだけに、神社仏閣などの歴史・文化的な資源をはじめ、多くの観光資源に恵まれている。

表 石和町域の主な観光資源

区分	歴史・文化	祭り	公園・施設	ハイキング
名称	佐久神社本殿 八田家書院 絹本著色仏涅槃図	松本のお天狗さん	八田御朱印公園 石和写真美術館 モルヘス美術館 山梨伝統産業会館	大蔵経寺山

これら文化財として指定されているような資源に加え、宿場さらには河岸としての歴史から、特に既成市街地周辺には、観光資源として活用できる可能性を有する素材がそこここに点在しており、時間をかけて見て回る価値が充分にある。

しかし実態としては、このような豊かな資源性にもかかわらず、実態調査の結果に見られるように、来訪観光客の観光行動に結びついていないのが実態である。

2) 一宮町域

一宮町は、北西に緩く傾斜した扇状地および丘陵地の上にある。日本一の桃の里として知られるほか、葡萄の生産量も山梨県内でトップレベルにある。町名になっている甲斐国一ノ宮である浅間神社は、旧国幣中社として格式が高く、国指定の重要文化財など数多くの宝物を有する。また、二ノ宮である美和神社（市内御坂町）、三ノ宮である玉諸神社（甲府市）を加えた御幸祭は、甲府盆地の治水の祈願の祭りとして 400 年以上にわたって受け継がれ、山梨県における三大祭りのひとつとして位置づけられている。大文字焼きが行われる大久保山は、その昔浅間神社が鎮座していた山で、散策路が設けられている。

浅間神社以外に、かつてここが甲府盆地の文化的な中心地であったことを物語る観光資源として、国分寺および国分尼寺跡があげられる。また、釈迦堂遺跡の出現でそれがはるか古代にまで遡ることが裏付けられた。

一方、扇状地の緩傾斜地形、長い日照時間、大きい寒暖の差などを利用したブドウ栽培が盛んで、ワインの醸造も 9 カ所で行われている。ワイン醸造の長い歴史を象徴するものとして、明治 34 年(1901)に造られた日本初のヨーロッパ形地下ワイン発酵槽（花崗岩を高い精度で積み上げた長方形の発酵槽を 10 基横並びに造って前面を地下通路でつないだもの）は、国の登録文化財となっている。興味深いのは、古くからの寺社、遺跡、ぶどう園、ワイナリーの分布が見事に一致する点である。

これらを含め、一宮町域における主な観光資源としては、次のようなものがある。

表 一宮町域の主な観光資源

区分	歴史・文化	祭り	公園・施設	ハイキング
名称	浅間神社摂社山宮神社本殿 慈眼寺本堂 慈眼寺庫裏 慈眼寺楼門 紺紙金泥般若心経 付武田晴信自筆奉納包 甲斐国分寺跡 甲斐国分尼寺跡 木造十一面観音菩薩立像 石造地藏菩薩坐像 超願寺文書 広厳院文書 梵字法帖 銅鐘 太刀 銘国次 古常滑大甕支那青磁碗同 染付碗皿黄瀬戸皿 古瀬戸瓶 古常滑大甕 太刀 銘一徳斉助則 刺繍法華経 刀剣 銘広重 附衛府太刀拵 紙本着色星曼荼羅 経塚古墳 夫婦梅 御供田（ごくうだ） ルミエール旧地下発酵槽 土偶 浅間神社	蜂城山天満宮天神祭	釈迦堂遺跡博物館 森林公園金川の森 青楓美術館	大久保山・峰城山 茶臼山 ナットウ箱山・達沢山

3) 春日居町域

石和町に隣接する春日居町は、平成の大合併以前にも石和町との合併話がもちあがった歴史があるように、両町は密接な関係にある。

石和温泉と地続きである春日居温泉郷の存在をとりあげるまでもなく、今後の観光地形成においても、石和町域と一体的な圏域として取り扱う必要がある。ただし、整理の都合上、ここでは春日居町を単独に取り上げる。

歴史・文化的資源として山梨県の名前の由来にも関係する山梨岡神社、またハイキングの場として首都圏で広く知られる山梨百名山のひとつである兜山などがある。さらに、甲斐の国で最も古い役所である国府や、同じく甲斐の国で最古といわれる寺本廃寺、防衛の任に当たった名残りで見られる地名「鎮目」など、格別な歴史を物語る

地域である。

春日居町域における主な観光資源としては、次のようなものがある。

表 春日居町域の主な観光資源

区分	歴史・文化	祭り	公園・施設	ハイキング
名称	山梨岡神社本殿 山梨岡神社太々神楽 木造五大明王像 木造立川不動明王控像	山梨岡神社祭典 春日居温泉まつり		兜山

4) 境川町域

甲府盆地の東南、御坂山系を背にした北面傾斜の丘陵に位置する境川町は、町域の中央に小高い丘「坊ヶ峯」が突出し、その周囲に 14 集落が散在している緑豊かな丘陵地である。笛吹市として合併する以前は「緑と太陽と文化の里」を謳った。俳壇の巨匠飯田蛇笏・龍太の生地として知られる。近年、工芸家や陶芸家等が恵まれた自然を求めて転居し、意欲的に創作活動を展開している。

産業は、ブドウ、モモ、スモモを中心とした果樹、スイートコーン、夏秋ナスなどの野菜を中心とした都市近郊型農業が盛んであるが、甲府駅まで 12km の至近距離にあり、中央自動車道甲府南インターチェンジに隣接しているという立地条件から、近年では工場が進出するなど、産業構造に変化が見られる。

境川町域における主な観光資源としては、次のようなものがある。

表 境川町域の主な観光資源

区分	歴史・文化	祭り	公園・施設	ハイキング
名称	藤垚の滝 木造虚空蔵菩薩坐像 版本大般若經 桑原家文書 智光寺のカヤ 藤垚のヤツブサウメ 宗源寺のヒダリマキカヤ 地藏堂塚古墳出土蔵手刀	大石寺の火渡り 金刀比羅神社 春の例大祭 晴雲寺の星まつり		藤垚の滝 稲山・四ツ沢

歴史・文化的資源の中にさえ自然素材が目立つことから分かるように、恵まれた自然環境が売り物である。このような恵まれた自然環境は、俳壇の巨匠飯田蛇笏を生む下地のひとつとなったともいえるであろう。深沢七郎の檜山節考の碑もある。

しかしながら、意外にも句碑や文学碑の類いは少ない。これは、文学の舞台になってきたという地域性を、観光面で積極的に生かして集客を図る必要性があまりなかったことによるものと見られる。

5) 御坂町域

甲府盆地東端に位置する御坂町は、駿州へ続く鎌倉街道の宿場として古くから開かれた。けわしい御坂峠を越える街道は、古来、山梨県における重要な幹線道路のひとつであり、現在は一般国道 137 号として、バイパスの整備が進行中である。

桃とぶどう、さらには花の栽培が盛んで現代の桃源郷を謳っている一方、工業団地も立地する。

御坂町域における主な観光資源としては、次のようなものがある。

表 御坂町域の主な観光資源

区分	歴史・文化	祭り	公園・施設	ハイキング
名称	木造大物主神立像 板絵着色三十六歌仙図 美和神社の太々神楽 白糸威棲取鎧〈残欠〉 朱礼紅糸素懸威胴丸佩 楯付〈一領〉 木造吉祥天女座像 と二天立像 木造香王観音像 木造他阿真教上人座像 称願寺の桜 御坂隧道 檜峰神社コノハズク 確認の地 姥塚 下黒駒の大ヒイラギ 渦文深鉢 美和神社 福光園寺 称願寺 檜峰神社	細野厄地蔵 美和神社 春の例大祭 下黒駒の 石尊まつり	みさか桃源郷公園 御坂路さくら公園	ナットウ箱山・達沢山 釈迦ヶ岳・黒岳 御坂峠

甲斐の国の二の宮である美和神社は、多くの文化財を所蔵し、春の例大祭も名高い。

6) 八代町域

八代町域のほとんどは御坂山塊の中央部から甲府盆地に向かって流れる浅川扇状地の上に発達している。日本武尊が東国征服の帰途、甲斐に立ち寄った凱旋の道として知られる、官道若彦路に沿って栄え、日本武尊に因んだ伝説が残っている。

美しい四季に恵まれ、また県の「森林文化の森」のひとつである「稲山ケヤキの森」は、森林浴や森林レクリエーションなどに好適で、町全体が豊かな自然に囲まれている。

八代町域における主な観光資源としては、次のようなものがある。

表 八代町域の主な観光資源

区分	歴史・文化	祭り	公園・施設	ハイキング
名称	岡の式三番叟 菱雲文帯半円方形四乳鏡 銚子塚古墳 御崎古墳出土品 362 点 竜塚古墳 木造如来形坐像及び 塑像残欠 木造十二神将立像 絹本着色熊野曼荼羅 附桐箱	八代の三日市 永井天神社の神楽 長崎のかかし祭り 双子塚祭典	稲山ケヤキの森 ふるさと公園	稲山・四ツ沢 大栃山・神座山

このうち注目すべきは銚子塚古墳で、全長 169m、古墳時代前期に造られた竪穴式石室をもつ前方後円墳で、県内では最大規模、東日本でも最大級の規模を擁する。昭和 5 年には、隣の丸山塚古墳とともに国の史跡に指定された。副葬品等から、大和朝廷と深いつながりをもつ、古代甲斐国の王ともいべき人物であったといわれている。

7) 観光資源の内容

以上にあげた観光資源の内容については、以下の表に示すとおりである。なお、これらの観光資源の所在場所については、Ⅱ-4-(2)においてまとめて示す。